

《子どもの部》

最優秀作品賞

●「大じいちゃんと手をつないで」<詩> 小田

今もときどき
思うんだ
大じいちゃんに 会いたくなって
夕日を見につれて 行くんだ
大すきな大じいちゃんが
まいごに ならないように

そんな大じいちゃんは
もうどこにもいない
なつかしい人たちのところへ
本当に 帰っちゃったのかな

なみだをふいたまま
ぼくは だまつてうなずいて
しんばい そうな大じいちゃんに
「こうちゃん なかないでね」

ポロポロ なみだが出た
ぼくの中から 「赤トンボ」の歌を歌った
みんなで行ったとき

道でまいごになった大じいちゃんを

あいこだよ
ぼくのおかずをたべちゃったから
一日になんども おやつをくれたけど
大じいちゃんとは 親友なんだ

大ぼくは ニコニコへんじをするよ
名前をまちがえてよぶけど
「こうちゃん」って
あんしんして ねてしまう

大じいちゃん
「帰りたい！」と言つてきかない
自分の家にも
大じいちゃんと手をつないで

将広 (小2・男 兵庫県)

大好きな大じいちゃんへの子ども素直な気持ちが表示されていて、子どもの目線から認知症をつたえするという観点から大変よい作品である。選考委員満場一致で選出した。